

**「1級キャリアコンサルティング技能士による実務指導に関する証明書」の記入にあたっての注意事項**

「技能検定キャリアコンサルティング職種1級に合格したキャリアコンサルタントにより行われるキャリアコンサルティングの実務に関する指導」に該当するかどうかは、以下のいずれの項目にも適合するかを基準に個別に判断することになります。

- ① 指導者は、「技能検定キャリアコンサルティング職種1級」に合格しており、かつ「キャリアコンサルタント」であること。
- ② 指導者から被指導者への指導が、一対一、または個別指導が成立する程度の一対少数（概ね6名以内）形態で、対面・応答的方式により行われること。
- ③ 指導が、被指導者がキャリアコンサルタントとして従事した事例に基づくものであること（職業キャリアの分野以外のカウンセリング事例に基づくもの等は対象となりません。）、また、指導者が被指導者のキャリアコンサルタントとしての課題や目標を把握した上で、これを踏まえキャリアコンサルティングの技能等に関して個別・具体的な指導を行っていること。

**【記入上の注意】**

1. 計上する時間は、指導を受けた時間のみを計上し、記録作成等の時間は記載しないこと。
2. 当該指導者による実務指導が複数年度にわたる場合は、年度ごとに1枚とすること（一証明書内で年度をこえないようにすること）。
3. 複数の指導者による実務指導を受けた場合は、指導者ごとに作成すること。
4. 申請内容について問い合わせを行う場合があることに留意すること。また、虚偽の記載があることが判明した場合は、申請が無効となるか、申請更新したのちであっても登録が無効となることに留意すること。

<b>事例の概要</b>	記入例) ◎ 40代男性 非正規社員今後のキャリア形成について ◎ 30代女性 産休後の職場復帰 ◎ 大学4年生キャリア相談について ◎ 50代男性 役職定年後の社内でのセカンドキャリア
<b>指導方法</b>	一対一 または グループ を必ず選択してください
<b>指導時間数</b>	▶ 記録作成等の時間は記載しないこと ▶ グループ指導の場合は、更新申請者の指導時間のみ記載すること（グループの他のメンバーへの指導時間は記載しないこと）
<b>指導の要点と課題、今後の目標</b>	記入例) ◎ クライアント視点の問題把握が不十分、活用可能な技法を増やすこと ◎ クライアントの気づきを促す質問が不足、支援関連情報を常に更新していくこと ◎ クライアントの強みの洗い出しが不十分、期限を意識し計画性を持ってコンサルティングを行う
<b>指導者確認欄の注意事項</b>	▶ 指導者のキャリアコンサルタント登録番号を記載すること ▶ 指導者の1級キャリアコンサルティング技能士番号を記載すること ▶ 指導者の直筆サイン、捺印を得ること ▶ 指導者ごとに用紙を変えること